

図書館のホームページは
<http://lib.jichi.ac.jp>

目 次

エッセイ…………… 1～3

和雑誌特集記事…………… 4～8

最近のトピックス…………… 3

論文投稿と査読の今昔

大宮医療センター眼科准教授 梯 彰 弘

私の今の専門分野は糖尿病網膜症で時々原著も書き、その草稿を川上センター長やFujimoto教授に校閲していただいたうえで投稿する。また一方で眼科医局員の論文をチェックして直す。眼科関係や糖尿病関係のジャーナルから査読依頼が来て、他の研究者の論文を査読しコメントと受理か否かの判定もする。といった具合です。論文執筆、投稿、校閲、査読はいずれもかなりの労力が必要です。

しかし近年のワープロの進化とインターネットおよび電子ジャーナルの普及によって論文執筆、投稿、校閲、査読の方法が昔と一変し、まったくデジタル化してしまいました。これがまことに便利と感じています。我々自治医科大学に勤めるものにとって医学に関わる何らかの研究をし、その成果を論文として投稿する作業はほぼ日常的に行われています。研究をし、その結果を論文として書くことはその研究分野の過去の文献をレビューすることから始まり自分たちの研究成果が過去の文献とどのように関連し、新しい役に立つ内容であるかを報告することです。図書館は私にとってもっぱらその文献を調べる窓口として活用してきました。多くの方々がそのような形で関わってきたものと推測しています。

論文を執筆するにあたってはその研究分野の歴史を正しく理解する必要があり、自分たちの論文の価値を高めるためにもその分野での初めての論文や大きなブ

レイクスルーになった文献をバイアスなく引用すべきです。科学雑誌のデジタル化（電子ジャーナル）がなされていなかった時代は単行本や総説などでその分野の歴史を学び、Excerpta

MedicaやIndex Medicusなどで近年の動向を探るような手法で引用する文献を選んでいました。しかしながらこれには大変な労力が必要なことは私と同年代以上の皆さんはよくご存知のことと思います。

文献の引用でしていけないと思われることはある論文で引用している文献をそのコメントどおり受け売りする、いわゆる「孫引き」です。この「孫引き」はそのオリジナル論文を読まずして引用でき、とても便利な方法です。一部の医局員はほとんどの引用文献を「孫引き」でまかなうといったつわもの（ばか者）もいました。しかしせめて引用する文献のコピーは確保し、Abstractだけでも眼を通しておかなければ「孫引き」の文献が実は「ひ孫引き」や「ひひ孫引き」となっていて、その都度表現を変えているためオリジナル文献の内容と違ったものになっていることもあります。私もめんどくさがり屋の方なのでこの「孫引き」手法を一部取り入れて論文を書いてきたこともありましたが自分の論文の価値と自信を高めるためにも「孫引き」



はやめましょう。

まず論文を書くにあたって自分の思い描いているストーリーに沿って始めますがバックグラウンドや考案のセクションでの文献引用が難関です。先に述べたように自分の研究に関係する文献をあらかじめ図書館で仕入れておくのですが、論文の執筆中にアイデアが変わったりして文献の入れ替えや追加などが必要になることもしばしばです。私の場合英語の表現や文法に加えてその論文内容も不安なので川上センター長やFujimoto 教授にチェックしてもらわなければいけません。論文執筆はかなりストレスな作業です。

しかしEndNoteという論文執筆ソフトとワードの利用によってこれらのストレス(論文内容の不安を除く)がほとんどなくなりました。このEndNoteというソフトは優れたもので私の論文執筆に関わるほぼすべての悩みを解決してくれました。ワードにマウントした状態で文書を書きながら文献が必要と感じたらキーワード検索でPubMedにアクセスしてくれて関連した文献を検索してくれます。その中でめぼしい文献をインターネット上で読み、ピックアップし、文献カードのようにファイルすることができます。そのジャーナルが図書館で電子ジャーナルとして採用になっていれば本文、図表までファイルすることができます。

私の世代のおりこうさん先輩医師は文献カードと称し分野別にタイトル、著者名、ジャーナル名、発行年、Abstractなど文献引用に必要な情報をまめにファイルしていましたが到底自分にはできないこととっていました。ところがなんとEndNoteの利用で今も自分にも完璧な文献カードができてしまうではないですか。その中からこれと思う文献を本文中に引用すれば自動的に投稿予定のジャーナルの形式で文献のセクションにリストアップしてくれます。その文献がどんなものか忘れてもその文献カードのファイルにアクセスし内容を読み直すことも直ぐにできます。

さて論文の草稿が出来上がると先輩医師に校閲していただく必要があります。通常は所属講座の主任教授にお願いすることになります。以前は書き上げた草稿に赤インクで直してもらったスタイルでした。字が汚い教授もいて、もともとわけのわからない論文がさらにわけがわからなくなる経験をしたのは私だけではないと思います。これも今のワードですと快適な原稿直しができてしまいます。書き直しや削除のヒストリーが示され、また校閲していただいた教授の質問までが草

稿内の欄外に示され、それに返答することもできます。しかもメールでのやり取りができるのでいやな教授室へ(いやな教授ではありません)の訪問もスキップすることができます。

以上の手順を踏んで論文が完成し投稿の段階となります。これも昔は厄介でした。チーフエディターへの手紙、本文とそのコピー3部、図表も写真クオリティーのオリジナルとコピー3部を用意しなければいけません。しかもアメリカのジャーナルであればA4ではなくアメリカンレターサイズの紙でということになります。私はわざわざそのためにアメリカの学会に行ったときは正式なレターのためのすかしの入ったボンド紙とコピー用紙を重たい思いをして買って帰ってきたものです。オリジナル1部とコピー3部をそれぞれクリップして海外書留速達で送ることになります。私はこの論文送付のためだけにフェデックスの会員になっていました。

ところが今ではほとんどのジャーナルがインターネットで投稿ができるようになりました。ジャーナルのホームページにアクセスし自分の論文のドキュメントをコピーペーストするだけです。図表もほとんどのファイル形式で投稿が可能でパワーポイント原稿からの図表もOKです。そして自動的に本文と図表を合わせてPDFファイルにまでしてくれるジャーナルもあります。苦勞して書き上げた論文を送る時の緊張感はなくなりましたが便利でお金もかかりません。

次に来るのは査読です。査読結果がメールでチーフエディターから返ってきます。昔ですと半年以上も返事が返ってこないとんでもないジャーナルもありました。手紙で査読結果を催促することもしばしばでした。今は査読に要する日数も大分減りました。査読する側も何度か経験していますが査読するのも楽になりました。査読者(レビューワー)にはメールで依頼がきてOKするとそのジャーナルのホームページにアクセスして当該の論文を査読することになります。査読論文はPDFファイルで快適な状態で読めます。ご丁寧に各著者の論文経歴をリストアップしているジャーナルもあります。またその論文に引用されている文献はもちろんのこと、関連する文献にもアクセスが可能な状態です。レビューワーとしてのコメントも当然インターネット上で行います。エディターへのコメントと著者へのコメントを書き、Accept、Minor revision、Major revision、Rejectの判定をします。その最終判

定結果はメールでレビューワーにも知らされます。

さて以上のようなことで査読を受け、返事が思ったより早くメールで返事が来ます。いつものことですが最初は高望みしたジャーナルに投稿していますので1回目はリジェクトされ次のジャーナル投稿に向け書き直します。通常レビューワーの意見を参考にして文献の削除や追加、データの洗い直し、まれに追加実験をし、書き直すこととなります。

ここで大きな問題が発生します。文献引用スタイルがジャーナル毎に違うためすべて本文中の引用部分と最後の引用文献セクションを書き直すこととなります。引用順にならべたものをアルファベット順に並べ変えたりすることにもなります。この作業は十分気をつけないと本文中のコメントと引用文献合わず、とんでもないことになったりしますのでとてもストレスでした。

この作業では引用文献を読まずに孫引きしたものは、たとえば孫引き元のスタイルで筆頭著者のみあったものを3人までの著者にスタイルを変換する、などのことが加わり結局その論文のコピーを取り寄せ正確にそのジャーナルのスタイルに沿ったものに変換することになります。悪いことはできないものです。反省してその文献をしっかりと読むようにしています。

いつもリジェクトばかりで何回も書き換えしている私はどうしてすべてのジャーナルが統一した文献引用スタイルを採らないのかと思います。しかし今ではこれもEndNoteですべて解決です。各ジャーナルにあった文献引用スタイルに一発で書き換えてくれます。さあこれでいくらリジェクトの返事が来ても大丈夫です！！えっ??

最近のトピックス

- | | | |
|-------|----|--|
| 3月13日 | 下野 | 重度合いで お産振り分け 「三角搬送」役割を分担 芳賀赤十字と自治医大 |
| 15日 | 朝日 | 小児科医自殺は労災 月8回の宿直 過労 東京地裁判決 |
| 16日 | 日経 | 多剤耐性緑膿菌 86%の病院 検出 厚労省 院内感染の対策促す |
| 20日 | 読売 | 432病院 救急指定返上 5年で 勤務医不足 深刻 |
| 22日 | 毎日 | タミフル 10代への処方中止 厚労省 中外製薬に指示 |
| 27日 | 毎日 | 新型インフルエンザ指針 移動制限は見送り タミフル使用容認 |
| 29日 | 朝日 | アルツハイマー原因物質 除去ワクチン開発 マウスで名大など |
| 4月2日 | 朝日 | 胃がん 新たなメカニズム解明 ピロリ菌で酵素誤動作 京大グループ |
| | 東京 | 「市中型」MRSAで死者 関東で昨年1歳男児 国内初、強毒タイプ |
| | 東京 | 酵素で血液O型に転換 米などの研究チーム発表 型決める糖類 効率よく除去 |
| 4日 | 読売 | 京大再生研のES細胞作製 民間施設が受精卵提供へ |
| 5日 | 日経 | 医療・介護向上へファンド 三井物産 老人ホーム投資 ドイツ証券 病院に土地賃貸 経営効率改善狙う |
| | 産経 | 卵細胞分裂 仕組み解明 不妊治療法開発に期待 |
| | 産経 | タミフル128人が異常行動 厚労省集計 10歳未満も33% |
| 6日 | 朝日 | 赤ちゃんポスト許可 「ゆりかご」揺れて産声 匿名で放棄広がる懸念 「子のため、事前に相談を」 政治意識し倫理強調 |
| 10日 | 読売 | 延命 患者意思第一に チーム方針決定 免責基準 今後検討 初の指針 |

A	アレルギー	特集Ⅱ アレルギー性咳嗽の診断と治療	臨免疫・アレルギー科	47 (2) 2007
		アレルギー研究の最先端	医のあゆみ	220 (12) 2007
	*アンチエイジング	アンチエイジングと栄養・運動	臨栄	110 (3) 2007
B	母乳	母乳と人工乳 -正しい理解と選択-	産婦の実際	56 (3) 2007
C	畜産	食の安全から見た畜産とホルモン	ホルモンと臨	55 (3) 2007
	超音波診断	脳血管障害の超音波検査最前線	Med Technol	35 (3) 2007
	クリティカルケア	救命救急 -そのときあなたはどうか動く？	レジデントノート	9 (1) 2007
D	大腸腫瘍	特集Ⅰ 大腸腫瘍の発育進展	消化器科	44 (2) 2007
	大動脈弁	大動脈弁膜症における人工弁の選択 -機械弁か生体弁か-	日外会誌	108 (2) 2007
	臀部	臀部の皮膚病 -腫瘍性-	皮病診療	29 (3) 2007
	DIC	DIC 病態解明とEBMの確立をめざして	治療学	41 (3) 2007
	動脈瘤-解離性	急性大動脈解離の外科治療	胸部外科	60 (4) 2007
F	*FDG-PET	FDG-PET -新しい保険適用と今後の展望-	臨放	52 (3) 2007
	婦人科外科	婦人科手術とQOL	産婦治療	94 (3) 2007
	不整脈	集中治療における不整脈の管理 -監視(モニター)と予測・予防・治療-	ICUとCCU	31 (1) 2007
G	*gabapentin	新規抗てんかん薬gabapentin	臨精薬理	10 (4) 2007
	咳嗽	特集Ⅱ アレルギー性咳嗽の診断と治療	臨免疫・アレルギー科	47 (2) 2007
	眼科	眼科救急診療	眼科	49 (3) 2007
	癌性疼痛	オンコロジストのためのがん疼痛治療UPDATE	癌の臨	52 (8) 2007
	画像診断	骨軟部画像診断の新たなる展開	日獨医報	51 (4) 2007
		画像による腫瘍術前進行度診断 -正診率の向上をめざして-	胆と膵	28 (2) 2007
	外科学	外科学の進歩と今後の展望	外科	69 (4) 2007
	誤嚥と誤飲	子どもの誤飲・誤嚥事故の実態とその予防	チャイルドヘルス	10 (3) 2007
	虐待	どう関わるか子ども虐待	小児臨	60 (4) 2007
H	肺疾患	肺感染症の画像診断 -胸部単純撮像のパターンによる鑑別診断-	画像診断	27 (4) 2007
	肺疾患-慢性閉塞性	慢性閉塞性肺疾患 -最近の動向-	最新医	62 (3) 2007
		慢性閉塞性肺疾患(COPD) -最新の基礎・臨床研究-	日臨	65 (4) 2007
		COPDの急性増悪をめぐる	呼吸と循環	55 (4) 2007
	発達障害	軽度発達障害 Q&A	小児内科	39 (2) 2007
		発達障害の早期発見と早期支援	地域保健	38 (3) 2007
	ヘリコバクター感染症	小児の胃炎、消化性潰瘍、Helicobacterpylori感染症	小児内科	39 (3) 2007
	皮膚炎-アトピー性	アトピー性皮膚炎とQOL	アレルギーの臨	27 (4) 2007
	皮膚疾患	意外な原因による皮膚病	皮病診療	29 (4) 2007
	皮膚腫瘍	臀部の皮膚病 -腫瘍性-	皮病診療	29 (3) 2007
	肥満症	知っておきたい肥満者の手術	外科治療	96 (3) 2007
	泌尿器腫瘍	泌尿器悪性腫瘍-最新の診断と治療	臨と研	84 (3) 2007

I	胃炎	小児の胃炎、消化性潰瘍、Helicobacterpylori感染症	小児内科	39 (3) 2007
	院内感染	1日で教える！新入職者のための感染対策オリエンテーション	Infect Control	16 (4) 2007
	インスリン抵抗性	インスリン抵抗性	細胞	39 (4) 2007
	インターベンショナル超音波診断	血管超音波検査	臨検	51 (3) 2007
超音波検査における血管病変の評価		臨病理	55 (2) 2007	
医療従事者	医療安全	日医師会誌	135 (12) 2007	
胃腫瘍	食道癌・胃癌手術の標準的リンパ節郭清：How to do it?	手術	61 (3) 2007	
J	耳鼻咽喉科疾患	耳鼻咽喉科領域の真菌感染の治療	耳鼻・頭頸外科	79 (4) 2007
	事故防止	医療安全	日医師会誌	135 (12) 2007
	腎不全	腎不全医療に携わる看護職の能力評価と継続教育	臨透析	23 (3) 2007
		透析導入前から終末期までの流れを理解 腎不全治療ガイド	透析ケア	13 (4) 2007
	人工呼吸	麻酔中の人工呼吸法と呼吸管理	臨麻	31 (3) 2007
	腎臓疾患	現代の腎疾患へのアプローチ	Mod Physician	27 (3) 2007
		長期予後を見据えた管理と治療の考え方		
	自殺	自傷、自死	アディクションと家族	23 (4) 2007
	自傷	自傷、自死	アディクションと家族	23 (4) 2007
	K	看護	肝・胆・膵がん ～最新の治療と看護②～	がん看護
そのケアはもう非常識かも…			消外ナース	12 (4) 2007
消化器外科の「常識」 過去と現在				
		家族の力を支える看護	家族看護	5 (1) 2007
看護評価		腎不全医療に携わる看護職の能力評価と継続教育	臨透析	23 (3) 2007
肝性脳症		肝性脳症	日消病会誌	104 (3) 2007
感染		肺感染症の画像診断 ー胸部単純撮像の	画像診断	27 (4) 2007
		パターンによる鑑別診断ー		
		新感染症学 下	日臨	増刊号 2007
感染予防管理		1日で教える！新入職者のための感染対策オリエンテーション	Infect Control	16 (4) 2007
関節疾患		高齢者の骨・関節疼痛疾患	総合リハ	35 (3) 2007
緩和ケア		緩和ケア・ターミナルケア	臨看	33 (5) 2007
肝臓腫瘍		肝・胆・膵がん ～最新の治療と看護②～	がん看護	12 (3) 2007
下肢腫瘍		下腿潰瘍の治療	皮膚臨床	49 (3) 2007
経腸栄養		経管栄養のセーフティマネジメント	看護技術	53 (4) 2007
形成外科		口唇裂一次手術における外鼻再建法	形成外科	50 (3) 2007
血液疾患		血液疾患領域の最近の進歩	Bio Clin	22 (4) 2007
血液透析		透析導入前から終末期までの流れを理解 腎不全治療ガイド	透析ケア	13 (4) 2007
気分障害	統合失調症と感情障害の補助診断法の最近の進歩	精神医	49 (3) 2007	
気道過敏症	上気道アレルギー疾患研究 ー最近の進歩から	医のあゆみ	別冊 2007	
呼吸管理	麻酔中の人工呼吸法と呼吸管理	臨麻	31 (3) 2007	
骨疾患	高齢者の骨・関節疼痛疾患	総合リハ	35 (3) 2007	

K	骨疾患－代謝性	骨粗鬆症と代謝性骨疾患 実地診療に役立つノウハウとその使いかた	Med Pract	24 (3) 2007
	骨粗鬆症	骨粗鬆症と代謝性骨疾患 実地診療に役立つノウハウとその使いかた	Med Pract	24 (3) 2007
	膠原病	膠原病診療のA to Z リウマチ性疾患・膠原病における疾患感受性遺伝子	総合臨 リウマチ科	56 (3) 2007 37 (3) 2007
	抗原提示	特集 I 抗原提示の機序をめぐって	臨免疫・アレルギー科	47 (2) 2007
	高血圧	ベッドサイド必携 二次性高血圧	Heart View	11 (4) 2007
	高齢者	高齢者の骨・関節疼痛疾患 高齢者癌薬物療法の進歩	総合リハ 癌と化療	35 (3) 2007 34 (3) 2007
	口唇裂	口唇裂一次手術における外鼻再建法	形成外科	50 (3) 2007
	抗体	抗体医薬 up to date ー癌編	Pharm Med	25 (3) 2007
	胸部X線診断	胸部単純X線診断をきわめる 肺感染症の画像診断 ー胸部単純撮像のパターンによる鑑別診断ー	画像診断 画像診断	27 (2) 2007 27 (4) 2007
	救急医療	眼科救急診療	眼科	49 (3) 2007
	救急医療技術者	救急現場の基本技術の枠組みと考え方	エマージェンシー・ケア	20 (4) 2007
L	リンパ節郭清	食道癌・胃癌手術の標準的リンパ節郭清：How to do it?	手術	61 (3) 2007
	リンパ腫	悪性リンパ腫	臨検	51 (4) 2007
	リンパ増殖性疾患	肺のリンパ球増殖性疾患とその周辺	日胸臨	66 (3) 2007
M	麻疹	麻疹	小児科	48 (3) 2007
	麻酔	麻酔中の人工呼吸法と呼吸管理	臨麻	31 (3) 2007
	免疫組織化学	診断に役立つ免疫組織化学	病理と臨	25 (臨増) 2007
	メタボリックシンドローム	メタボリックシンドローム 現状とその課題 女性とメタボリックシンドローム	公衆衛生 産と婦	71 (3) 2007 74 (4) 2007
N	内蔵	臓器がん：最も困難な課題は何か がん予防を実践するために	癌の臨	52 (9) 2007
	ネフローゼ症候群	ネフローゼ症候群	日腎会誌	49 (2) 2007
	認知症	認知症と住環境	老年精医誌	18 (2) 2007
	脳血管障害	脳血管障害の超音波検査最前線	Med Technol	35 (3) 2007
	脳梗塞	脳梗塞診療 変革の時	日経メディカル	472 2007
P*	ピリオイド	慢性疼痛患者に対するピリオイドの使い方	ペインクリニック	28 (3) 2007
	<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	多剤耐性緑膿菌 (MDRP) をめぐって ー疫学・検査・臨床ー	臨と微生物	34 (2) 2007
R	リウマチ性疾患	リウマチ治療の新時代 ー治療薬を使いこなすー リウマチ性疾患・膠原病における疾患感受性遺伝子	内科 リウマチ科	99 (4) 2007 37 (3) 2007
	臨床医学	臨床医学の展望2007ー診断および治療上の進歩 【5】 臨床医学の展望2007ー診断および治療上の進歩 【6】 臨床医学の展望2007ー診断および治療上の進歩 【8】	医事新報 医事新報 医事新報	4323 2007 4324 2007 4326 2007
	再生医学	再生医学とリプロダクション	産婦の世界	59 (3) 2007
S	生活の質	婦人科手術とQOL アトピー性皮膚炎とQOL	産婦治療 アレルギーの臨	94 (3) 2007 27 (4) 2007

清潔の援助	すっきり、さっぱり清潔ケア ケアをとおして 患者の状態、把握できていますか？	月刊ナーシング	27 (4) 2007
精神医学	精神科医育成のための後期研修プログラム －卒業3年日以降の精神科専門研修－	臨精医	36 (3) 2007
生殖医学	再生医学とリプロダクション	産婦の世界	59 (3) 2007
脊髄	脊髄誘発電位	臨脳波	49 (3) 2007
*心不全	心不全発症・進展の分子機構に迫る	細胞工学	26 (4) 2007
真菌症	耳鼻咽喉科領域の真菌感染の治療	耳鼻・頭頸外科	79 (4) 2007
新生児	新生児医療の進歩 ー後遺症なき生存をめざしてー	小児診療	70 (4) 2007
新生児疾患	まれな新生児外科疾患の治療	小児外科	39 (3) 2007
心臓弁膜症	大動脈弁膜症における人工弁の選択 ー機械弁か生体弁かー	日外会誌	108 (2) 2007
心臓人工弁	大動脈弁膜症における人工弁の選択 ー機械弁か生体弁かー	日外会誌	108 (2) 2007
食道腫瘍	食道癌・胃癌手術の標準的リンパ節郭清：How to do it?	手術	61 (3) 2007
食品衛生	食の安全から見た畜産とホルモン	ホルモンと臨	55 (3) 2007
消化器外科	そのケアはもう非常識かも… 消化器外科の「常識」 過去と現在	消外ナース	12 (4) 2007
消化性潰瘍	小児の胃炎、消化性潰瘍、Helicobacterpylori感染症	小児内科	39 (3) 2007
小児	子どもの誤飲・誤嚥事故の実態とその予防	チャイルドヘルス	10 (3) 2007
	小児の胃炎、消化性潰瘍、Helicobacterpylori感染症	小児内科	39 (3) 2007
	どう関わるか子ども虐待	小児臨	60 (4) 2007
小児看護	ようこそ小児看護へ はじめて小児に携わる看護師のために	小児看護	30 (4) 2007
周産期医学	周産期医療の崩壊を防ごう	臨婦産	61 (3) 2007
集中治療	集中治療における不整脈の管理 ー監視（モニター）と予測・予防・治療ー	ICUとCCU	31 (1) 2007
腫瘍	がん化学療法と薬学的安全管理	医薬ジャーナル	43 (3) 2007
	臓器がん：最も困難な課題は何か がん予防を実践するために	癌の臨	52 (9) 2007
	高齢者癌薬物療法の進歩	癌と化療	34 (3) 2007
	がん診療の最前線（前篇）	最新医	62 (3月増刊) 2007
	がんの緊急病態と症状マネジメント	看護技術	53 (5) 2007
	がんの新辞典	からだの科学	253 2007
	癌診療ガイドラインの功罪	臨外	62 (4) 2007
卒後教育	精神科医育成のための後期研修プログラム ー卒業3年日以降の精神科専門研修ー	臨精医	36 (3) 2007
膵臓疾患	身近にある胆・膵疾患	診断と治療	95 (3) 2007
膵臓腫瘍	画像による膵癌術前進行度診断 ー正診率の向上をめざしてー	胆と膵	28 (2) 2007
	肝・胆・膵がん ～最新の治療と看護②～	がん看護	12 (3) 2007
T 胆道疾患	身近にある胆・膵疾患	診断と治療	95 (3) 2007
胆道腫瘍	肝・胆・膵がん ～最新の治療と看護②～	がん看護	12 (3) 2007
胆管炎－硬化性	特集Ⅱ 硬化性胆管病変の診断と問題点	消化器科	44 (2) 2007

T 胆石症	胆石症の治療戦略	消外	30 (3) 2007
多剤耐性	多剤耐性緑膿菌 (MDRP) をめぐって -疫学・検査・臨床-	臨と微生物	34 (2) 2007
てんかん	てんかん外科 -てんかん治療の現状と将来-	カレントセラピー	25 (4) 2007
	抗てんかん薬による治療-新たな動向と展望	臨精薬理	10 (4) 2007
	新規抗てんかん薬gabapentin	臨精薬理	10 (4) 2007
ターミナルケア	緩和ケア・ターミナルケア	臨看	33 (5) 2007
統合失調症	統合失調症と感情障害の補助診断法の最近の進歩	精神医	49 (3) 2007
糖尿病	糖尿病の知識道場 1か月目のキホンを学ぶ	糖尿病ケア	4 (4) 2007
	新しい糖尿病の臨床	診断と治療	95 (増) 2007
疼痛	慢性疼痛患者に対するピリオイドの使い方	ペインクリニック	28 (3) 2007
	高齢者の骨・関節疼痛疾患	総合リハ	35 (3) 2007
椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアの基礎から最先端治療まで	整・災外	50 (3) 2007
	腰椎椎間板ヘルニア治療の最前線	臨整外	42 (3) 2007
Y 薬物療法	がん化学療法と薬学的安全管理	医薬ジャーナル	43 (3) 2007
	高齢者癌薬物療法の進歩	癌と化療	34 (3) 2007
	抗体医薬 up to date -癌編	Pharm Med	25 (3) 2007
*薬物性腎障害	薬物性腎障害	医のあゆみ	別冊 2007
薬疹	広がる薬疹の世界 -最新概念・病態・治療	医のあゆみ	220 (11) 2007
腰椎	腰椎椎間板ヘルニアの基礎から最先端治療まで	整・災外	50 (3) 2007
	腰椎椎間板ヘルニア治療の最前線	臨整外	42 (3) 2007
輸液	輸液ライン管理必携 -正しい理解と最新知識	看実践の科学	32 (4) 2007
誘発電位	脊髄誘発電位	臨脳波	49 (3) 2007
Z 造血幹細胞移植	造血幹細胞移植の新たな展開	血腫瘍	54 (3) 2007
造血器腫瘍	造血器腫瘍の分子標的療法	医のあゆみ	220 (9) 2007
	実地医家のための造血器腫瘍の診療	成人病と生活習慣病	37 (2) 2007
頭痛	頭痛診療の進歩	神経内科	66 (3) 2007



発行 自治医科大学図書館

☎329-0431 栃木県下野市薬師寺3311-160 ☎ダイヤルイン:0285(58)7059

印刷 (株)松井ピ・テ・オ・印刷